

わが職場

丸一鋼管は1947年の設立以来、鋼管一筋に技術力を蓄積し、最新鋭の製管機多数に加え、原材料加工処理用の冷間圧延ミル、連続溶融亜鉛めっき設備などを完備、外径8ミリの小径から508ミリの中径管、400ミリ角の建築用コラムなど、高品質かつ多彩な品種を製造しており、建築、自動車、配管、電線管、照明柱などに広く使われています。

会社の特色として、“需要地生産体制”、“材料製造加工”、“鋼管第一主義”、“独自販売体制の採用”などが有りますが、中でも需要地生産体制については、国内に11の工場を配備した需要地直結の供給ネットワークで、地域のお客様のニーズに合わせた生産体制をもち、納期への柔軟な対応や迅速な技術サービスなど、種々の利点があります。また、国内6主要都市に配置された丸一鋼管株式会社の販売事務所のほか、関連会社である丸一鋼販

の営業所および沖繩丸一による販売ネットワークが、国内の販売サービス体制を支えております。海外に於いてもアメリカ、インドネシア、中国、ベトナム、インド、メキシコの各工場にて鋼管の製造を行っています。

三豊市詫間町に有りますここ詫間工場では、防錆力に優れた亜鉛めっき鋼管への要望に対し1989年、月間3万トンを超える処理能力を持った最新鋭の連続酸洗ライン、冷間圧延ミル、連続溶融亜鉛めっきラインを設置しました。ここで加工・処理された表間処理鋼帯が丸一グループの各工場パイプの原材料として造管されています。めっきの種類は溶融亜鉛めっきと、耐食性に極めて優れた溶融55%AL-Znめっき(Al-Z55®)です。こうした原材料加工処理設備は、專業鋼管メーカーの中では当社のみが保有するものであり、当社にとって大きな強みとなっております。

安全に対する全社共通の取組みとしては、全社単位では毎月の工場長会議に加えて、年に4回全国の工場の責任者が一堂

に会し工場で全社安全会議を開催し、安全巡視を行います。その場で作業員の不安全行動をチェックし、数十件という指摘が挙がります。ここでの指摘を横展開し、それぞれの工場で安全会議、リスクアセスメント、安全巡視等に活かす努力をしています。

各工場の災害発生情報は即座に全国の工場に電子メールで連絡がなされ、各工場と同様の災害が起きない様注意喚起致します。災害が起こった工場には、社長自ら安全教育部長と共に現地確認に行きます。

また、最近では新入社員教育の中での安全教育に力を入れています。“無災害”は工場にとっての永遠の課題であり、一朝一夕に実現できるものではありません。倦まず緩まず、何度も何度も繰り返し、一つ一つコツコツと積み上げていく息の長い、しかしとても意義深い取り組みです。今後とも前向きに努力を継続してまいります。

丸一鋼管(株)詫間工場

工場長 元山 俊厚